



笠間稲荷神社

笠間稲荷神社◎社報

胡桃

くるみ

笠間稲荷神社復興奉賛のお願い
講中を訪ねて
神前結婚式のご案内



東日本大震災から一年を経て

震災から一年を経て、徐々にではありますがありますが、復興の姿が見えて来ておりますこと心強く感じております。当社におきましても、地震後、すぐ行いました、復興祈願を本年四月九日の例祭に併せ、再度執り行い稲荷の大神様に一日も早い復興と、未だ続く余震から被害が拡大しないようお力添えを頂くべく祈願申し上げます。

当社の復興状況を申し上げますと、皆様のご支援を頂きまして、昨年ご報告いたしました通り、皆様の参拝に支障がある部分の修繕を終え、現在、ずれやねじれといった被害を受けました本殿を始め、社務所内の機能回復作業を進めております。皆様に心配をお掛けしております、鳥居や玉垣という構造物は、余震の危険性がある程度収まった後、着工の予定です。今日までの復興、またこれからにおいて、皆様には尊い御浄財を当社復興の為に寄せ頂いておりますこと、感謝申し上げます。完全な復興には後数年を要することになると存じますが、その間変わらぬ、ご支援、ご指導を頂きますようお願い申し上げます次第です。

先日、この茨城県の筑波地方を竜巻がおそいました。被害に遭われました皆様には心からお見舞い申し上げます。地震から約一年が過ぎた時期での出来事でもあり、昨年、日本各地でおきました大雨被害と併せ、いろいろと考えさせられます。

神道は、自然への畏敬を持ち、自然への感謝、恐れを忘れずに自然と共に生きていくことを教えています。古代から日本人はどのように生きていました。科学技術が進み、いろいろな事が解明されるに当たり、そういった心の部分は置き去りになってきてしまった様な気がします。

自然災害は、どうしても完全には防ぐことは出来ないものです。今後、我々は自然とはどういうものなのか、どうつきあって行くべきなのか、今世間を騒がす、エネルギー問題を始め、昔の日本人の在り方に、その解決のヒントは多分にあると考えます。

笠間稲荷神社復興奉賛会 — 復興奉賛のお願い —



地震発生前



地震発生時



地震発生後

東日本大震災は、広範囲にわたり未曾有の被害をもたらしました。

当社でも甚大な被害を受けましたが、皆様のあたたかいお心遣いに支えられ、現在、復興作業が執り行われております。ご崇敬者の皆様には厚く御礼を申し上げます。

何卒、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



玉垣をご奉納して頂きました皆様方には多大なるご心配をお掛けしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

◎ご奉賛について

一、皆様からの奉賛金は、個人の場合は確定申告、法人の場合は損金算入する事により財務大臣が指定した「指定寄附金」として、所得税や法人税の優遇措置が受けられます。

一、ご奉納は、ご参拝のおりか郵便振替、指定取扱銀行振り込みのいずれでも結構です。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納致し末永く顕彰致します。

○振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇一三〇・二・五九六二二四

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普) 一五〇六四四八

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定寄附金 代表役員 塙 東男

お問い合わせ先

電話 〇二九六・七三・〇〇〇一

復興奉賛会事務局



旧暦の夏越の大祓

8月17日 16時30分

8月



献灯祭

8月5日 17時



中秋祭

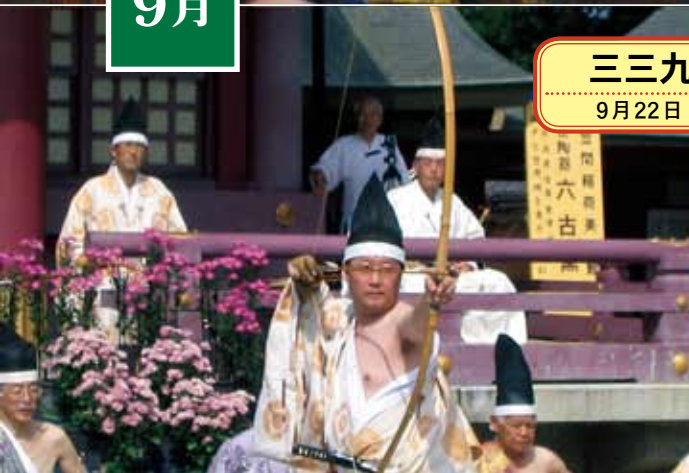
9月30日 16時30分

9月



三三九手挟式

9月22日 12時30分





菊まつり

10月13日～11月25日



菊人形展

10月13日～11月25日

10月



本宮祭

10月23・24・25日 11時



笠間示現流奉納

11月上旬



大和古流奉納

11月上旬

11月



流鏝馬

11月3日 10時・14時

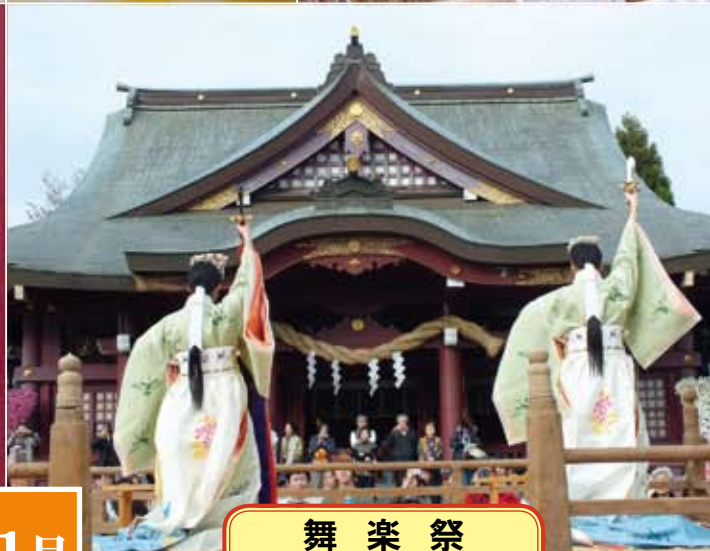


新嘗祭・献穀献繭祭

11月23日 10時



献穀献繭品評会



舞楽祭

11月18日 10時・14時

11月

図画コンクール

10月13日～11月25日



菊花品評会

10月25日・11月2日、7日





御火焚串炎上祭

12月21日 9時



煤 払 い

12月下旬



12月



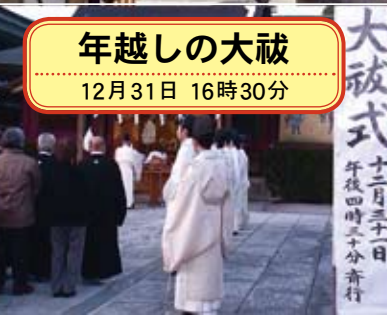
大 晦 日

12月31日



年越しの大祓

12月31日 16時30分



献燈祭 8月5日(日) 17時斎行

行燈に火を灯し先祖の御霊^{みたま}を慰め、神恩に感謝の誠を捧げ各家の安泰とご祈願の成就を願うお祭りです。

行燈の奉納を受け付けております。

大行燈 1基 1万円・中行燈 1基 5千円・紙行燈 1基 1千円

各行燈には願意と名前が入り、大・中行燈には御札をお付けいたします。

皆様のご奉納をお待ちしております。

御火焚串炎上祭 12月21日(金) 9時斎行

火は古来より神聖なものとされ、人々の心身に知らず知らずのうちに付く罪穢^{けが}れを祓い清める力を持つものとして考えられてきました。

炎上祭でお焚き上げる串は、木製の板に住所、氏名、願意を記入した物です。

これを神前に奉納し神火によって罪穢^{けが}れを祓いご祈願成就を祈念いたします。

初穂料500円で授与しております。

その他、詳しい祭事予定はホームページをご参照下さい。

笠間稲荷神社

検索



笠間稻荷神社日誌



平成二十四年

赤字…祭典
緑字…行事
黒字…講中参拝・正式参拝

◆一月

一日

歳旦祭

高梨講・

茨城日産自動車株・

八千代講・

下野小山須賀笠間講・

藤井講・赤坂講・

㈱サンツアー海上営業所

元始祭

小松稻荷講

初甲子祭

野尻笠間講

新始祭

J R水戸鉄道サービス㈱・明誠講・

根崎解体工事㈱

神明氷川神社・海上芋苗組合

昭和天皇遥拜式

上神明天祖神社・東毛敬神講・

㈱横山喜惣治商店・穂波会

初事比羅祭

桜川市たばこ耕作共励会・㈱国分建設

ヤマト運輸㈱茨城主管支店・

笹本笠間稻荷講

茨城綜合警備保障㈱

尖閣諸島安全祈願祭



十五日

古札炎上祭

氷川神社・高円寺氷川神社・

嶋田商会・石井工業信友会・

キャラエーピー㈱

大麻頒布終了奉告祭

(有)秋田土木

正徳講

㈱ナテック・城東町四丁目自治会

旧大祓式・御本殿畳奉納奉告祭

八丁通り商店会・下三ヶ尾笠間講

野田市今上笠間稻荷講・東京平和講

柏崎講

旧歳旦祭

初天神祭

防災訓練

笠間稻荷門前講

二十八日 笠間稻荷神社敬神婦人会・山高野講

二十九日 麻生笠間講・太木講・野中組稻荷講

堀の内組・弥栄講

幸手講

三十日

◆二月

二日

サカイ会祈願会

三日

初午大祭・

節分祭追儺式



笠間友部街商組合・

並木町笠間講

共栄講・

川上実行組合・都賀町講

石の葉講・取手市機械工業会

房地組合・船形観光友の会・

大山笠間講・木間ヶ瀬笠間講・

東宝上町講

栃木市笠間会

原町講 講元 本木信夫様来社

北方領土返還祈願祭

針供養祭

東京八方講

絵馬コンクール審査

紀元祭

中田英寿様来社・野田市信栄講

野田市蕃昌笠間稻荷講・鶴ヶ丸講

祈年祭・初穂講大祭

中峰笠間講・旭市奉賛会・

豊田稻荷講

元町笠間稻荷講・下古山講

天皇陛下御病氣平癒祈願祭

川口商栄講・網戸中宿稻荷講

東京弥栄講

松原稻荷神社・中野台笠間講

野田七親講・

会津出羽三山敬神会

笠間一心講

二十五日 船形笠間稲荷講

二十六日 絵馬祭・

絵馬コンクール表彰式

大相模笠間講・

下落合笠間稲荷講・

本妙講

二十七日 旧初午大祭

阿字ヶ浦西久保稲荷講・

向町笠間講

二十八日 貴船笠間講

◆三月

・三日 井沼方講

・四日 甲子祭

笠間稲荷高柳講

十一日 東日本大震災復興祈願祭

橋本同姓会・秋山講

十四日 心和講

十六日 浦和辻神仰会

十七日 笠間中学校卒業生還暦のつどい

筑友会

十八日 全菊連関東地区審査員研修会

二十日 春季皇霊祭選拜式

二十二日 柳沢胡桃下稲荷講

松本昭正様来社

二十四日 藤岡稲荷講

二十五日 幸栄親睦会



二十八日 新入社員研修開始
三十日 志和稲荷神社宮司鯉沢克美様来社

◆四月

一日 新入社員入社奉告祭

二日 日本画家 鳥居禮様来社

三日 神武天皇選拜式

豊四季講

五日 二八二〇地区ロータリー

坂寄恵様来社

八日 佐久講・大櫻笠間講・

東京笠間講・

笠間稲荷下谷参拝講

例大祭

九日 笠間稲荷神社旭講

十日 東京月島笠間稲荷講・

東京九佐講

二十四日 秩父親和講

二十八日 笠間稲荷日の出谷の入講

二十九日 昭和祭

東京紋三郎講・東京笠間信友講

◆五月

三日 甲子祭

十日 御田植祭

十二日 東京胡桃講

十三日 池袋氷川神社宮司山内学様来社

東毛敬神講・東京大栄講・



十五日 東京笠間報恩講・上尾笠間稲荷七胡講
笠間市倫理法人会
会長 小田部伸様来社

十六日 天皇皇后両陛下下行幸啓安泰祈願祭・

講社大祭

二十日 天皇皇后両陛下還幸啓奉告祭

西東京寿恵広講・長沢稲荷講

二十一日 鹿児島県神社庁副庁長・

加紫久利神社宮司伊東昭建様来社

二十七日 植樹祭奉告祭

鵜沼伏見稲荷神社宮司田村進様来社・

小鹿野笠間講

◆六月

一日 春日大社藤喬会理事長平山行雄様来社

二日 藤永製菓 藤永敏之様来社

三日 東京あづま講・長江建材工業株式会社

四日 廣田神社宮司西井璋様来社・

魚沼神社総代会会長桜井文壹様来社

七日 蒲郡敬神婦人会会長鈴木喜美子様来社

十六日 第十六回たつみ会同窓会

十七日 西秩父笠間講

霞ヶ浦高等学校硬式野球部

二十四日 車の茅の輪くぐり

三十日 夏越し大祓式



講

中を訪ねて 埼玉丸元講

埼玉県春日部市にお住まいの講元・寛田光男さん、副講元・会計・理事・世話人からなる役員十三名が中心となり、毎年秋に講員約八十余名で笠間へおいでになる埼玉丸元講は、平成十六年に講創立五十周年を迎えた歴史ある講中です。

埼玉丸元講の講参拝の始まりは、昭和二十八年という記録が神社に残っており、初代講元は昭和四十一年までお務めになられた根本忠蔵さんとのことです。笠間稲荷神社へ講参拝をするより以前に「丸元講」という講名で講を結び、地域の代表者が遠くの神社へ御神札をいただきにお詣りをする代参をしていたのではないかと考えられています。現在のように高速道路や鉄道が整備される前は、春日部から笠間まで講員が幟を掲げて歩いて参詣していたという話も伝わっています。

講員は、春日部市内、近隣の方々と構成されており、「参拝に行くことを強制してはならない。友人・知人を誘う形で参加してもらおう」という、歴代の講元・役員の方針を今も踏襲し、

講員相互に誘い合わせて、親睦を深めることも目的とした旅行形式でお詣りしているとのこと。商店主・農業を営む講員が多い為、農繁期である十月・十一月は避け、現在も九月の平日に参拝計画を立てておられます。

笠間へ参拝するようになってから良いことがたくさんあったと口々におっしゃる皆さんから、講参拝をした商店主が「参拝から帰ってくると、翌日はお客様が入る」と言い、稲荷大神様の商売繁昌の御神徳を感じる、というお話も伺いました。講元・寛田さんは「今まで大きな病気をしたこともなく、健康で、家庭も何事もなく過ごしていることがありがたい」と平穩無事な生活を大神様に感謝されています。今後の講運営には、信仰心が薄れてきている若年層をどう盛り立てて講に参加させるか、高齢者を抱える家庭での参拝が困難であること等、問題は少なくはありませんが、地域の方々が更に大神様との御神縁を結ばれ、御加護をお受けになれますようお祈り申し上げ、次回のご参社をお待ちしております。



講元
寛田 光男

職業：廃品回収業
大池町会副会長
春日部八幡神社総代
趣味：溪流釣り、海釣り
講員の高齢化が進み、講参拝への参加呼びかけや旅行の計画等大変なことは多くありますが、講員が揃って笠間へ参拝できることが何よりと思い、大神様に感謝しています。



副講元
押田 利男

職業：農業



副講元
遠藤 晴夫

職業：畳製造業
春日部市青色申告会代議員・理事
埼玉県東部畳組合監事
H22春日部市技能功労賞受賞
趣味：読書



世話人・前講元
関根 勇

職業：農業 趣味：旅行



◀お忙しい中、取材当日お集まり頂きました埼玉丸元講・役員皆さん。
左より、副講元押田さん、講元寛田さん、前講元関根さん、副講元遠藤さん。

「講中を訪ねて」でご紹介させていただく講中を募集しております。
訪問、取材へのご協力を宜しくお願い致します。

日本の心を大切に、思い出に残る神前結婚式

笠間稲荷神社の御祭神・宇迦之御魂神は、生命の根源を掌る「いのち」の根の神様でございます。神前結婚式は、代々受け継がれてきた「いのち」を、これより後もつないでいく約束をする、新郎新婦お二人の人生の大切な節目です。



稲荷大神様の御加護の下、ご両家の絆を固く結び、
お二人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます



- 初 穂 料：亀式5万円(雅楽生演奏1名)、鶴式10万円(雅楽生演奏3名、巫女舞あり)
挙 式 場：社務所内・儀式殿(見学可)、拝殿挙式は斎行致しておりません。
設 備：披露宴・パーティー会場は併設しておりません。控え室ご両家各1室、更衣室1室使用可。
撮 影：境内撮影自由、挙式中の撮影は一部制限があります。撮影用の椅子等の貸出は不可。
衣 装 等：和装・洋装の決まりはありません。衣装はご自身でご用意下さい。
参 列 者：基本的に親族のみ可、新郎新婦含む30名以内は規定初穂料にて斎行、30名以上は1名毎500円増。
挙式参列可能人数は両家各18名まで、直会は60名程度まで対応可。いずれも要相談。
挙 式 時 間：亀式1時間、鶴式1時間15分程度。祭典日を除き9時～15時の間の希望時間より斎行可。

<お問い合わせ> 笠間稲荷神社社務所 崇敬係(すうけいかかり)
Tel0296(73)0001 9:00～16:00

結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。
祭事等の都合によりご案内致しかねる場合がございますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

第105回
笠間の菊まつり

平成24年
10月13日

土

11月25日

日

8時半～16時半（入場は16時まで）

※但し10月13日は11時～

大菊人形展

日本三大稲荷
笠間稲荷神社

かさまを彩る菊もよう

盛清平 菊人形展



笠間稲荷神社 大菊花展・菊人形展に 協賛して頂ける方を募集しております



笠間稲荷神社の菊まつりは明治四十一年に始まり、今年で一〇五回の開催となります。この開催回数は全国各地で行われている菊まつりの中では最多の開催回数を誇ります。当社の菊まつりは茨城の秋を代表するイベントとして毎年約六十万人の方が訪れます。菊の花を愛でる文化は日本人に深く根付いておりませんが、その一方で近年、後継者不足や価値観の多様化等の問題を抱え、菊まつりの開催を取りやめる自治体や団体も増え、その文化は失われつつもあります。

当社においても同様の問題を抱えている状態ですが、菊の文化を後世に伝える為、様々な施策を講じている最中でございます。但し、今後そのような活動をしていく上で、当社のみでは限界もあり、多くの方々のご協力が必要です。どうか、この趣旨にご賛同頂き、ご協力賜ります様お願い申し上げます。協賛方法は現在、協賛のぼり旗もしくは協賛看板の形にてお願いしております。ご協賛頂けます方は、笠間稲荷神社事業室までご連絡下さい。

笠間稲荷神社 事業室

茨城県笠間市笠間 1

笠間稲荷神社社務所内

電話番号 0296-73-0001

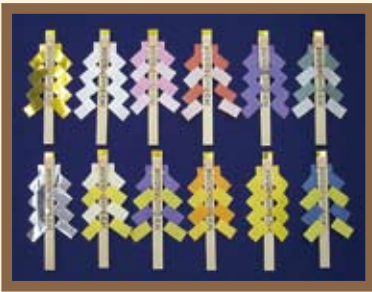
F A X 0296-73-0002

笠間稲荷神社 ご案内

月詣り

御祭神宇迦之御魂神は「いのち」の根の神として、衣食住・殖産御守護と、人々の生活すべてに御神徳のある大神様であり、御恩頼にあらざる崇敬者の方々の心の支えとなっております。その中には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感じ、新たな護神徳を頂くことです。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を



授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。

祈禱案内 商売繁栄

稲荷の大神様は殖産興業の守護神であり、商売繁栄を祈願する方が多く祈禱を受けられます。

大神様の御心に添い、人の役にたてるよう仕事に励む事で、更なる御加護を頂けるのではないのでしょうか。

当社ホームページからもご祈禱のご予約が頂けます。



◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。

ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。ご奉納頂いた方の御芳名は当社において末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◎奉納者芳名

「菊灯」

東京都

杉本

栄殿



常陸七福神めぐり

～お問い合わせは各社寺へ～



文治元年（一一八五）源頼朝が鎌倉入りを前に武運長久を祈願、開運を念じて建てたと言われる臨済宗の名刹・長勝寺。

阿弥陀三尊をまつる茅葺きの仏殿、山門、書院は茨城県指定文化財で、元禄年間、徳川光圀公が伽藍の荒廃を惜しんで修復整備し、書院まわりの意匠は特に優れているといわれます。

長勝寺に祀られている七福神は、南極星の化身といわれた千歳を越える仙人で、中国・道教の長寿神・福祿寿です。

福祿寿は、幸福、封祿、長命の三徳を授ける神として信仰されています。

主に背丈が低く、長頭で、童顔姿で、経文を結んだ杖を手に持ち、鶴を伴った姿をしています。



④長勝寺

福祿寿

潮来市潮来四二八

TEL〇二九九(六)三三八〇八



七福神で八つの幸せ

常陸七福神は、霞ヶ浦を中心に、全国でも珍しく八つの神社とお寺に安置されており、日本で最も巡拝路が長い七福神めぐりとして知られています。

笠間稲荷神社には、福德・財宝を与える神として信仰を集める大黒天が祀られており、御縁日である甲子の日には多くの崇敬者で賑わいます。



▲御縁日には甲子祭が斎行されます。

本年の甲子祭は、七月二日、八月三十一日、十月三十日、十二月二十九日に斎行されます。どうぞご参拝下さい。

今号では、常陸七福神のうち、長勝寺の福祿寿と逢善寺の弁財天をご紹介します。

各社寺で朱印や御守りを授与しております。常陸七福神を巡拝し、八つの幸福をお受け下さい。

稲敷市小野三三八

⑤逢善寺

弁財天

TEL〇二九七(八七)二六二一



天長三年（八二六）逢善道人の開祖と伝わる天台宗の名刹・逢善寺。

江戸時代には徳川幕府より朱印地三百石を賜り、関東八ヶ壇のひとつに数えられました。仁王門をくぐると、広い境内の奥に茨城県指定文化財の本堂が建っています。

逢善寺に祀られている七福神は、七福神唯一の女神・弁財天。主に、宝冠、青衣を着用し、琵琶を弾いている美しい姿をしており、印度の神の化身、また市来島姫命と同一神といわれています。

音楽・弁舌才智・水・芸術・商売繁昌・福德の神として広く信仰を集めています。



神社のいろは

Q おみくじとは何ですか？

A 一般に、個人の運勢や吉凶を占う「くじ」のひとつです。吉凶禍福のほか、金運・恋愛・失せ物・健康など広く生活に関わる記述が見られ、また「くじ」の形態も杜寺によってさまざまです。



Q おみくじはいつからあるのですか？

A 起源は古代までさかのぼると言われますが、今日のように杜寺で参詣者が吉凶禍福を占う為に行うようになったのは、鎌倉時代の初め頃からです。

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所
☎0296(73)0001

Q おみくじは結ばなければいけないのですか？

A 持ち帰ってもよいのですか？

おみくじは、結ばずに持ち帰っても結構です。神様とのご縁を結ぶという意味合いから結んでいく方が多いですが、持ち帰って見直し、今後の生活の指針にして頂くこともお勧め致します。また、おみくじは境内の木には結ばず、必ず指定の場所へ結ぶようにして下さい。



- ① 手振りみくじは、みくじ棒の入った箱を自分で振ります
- ② 箱からくじをひくものも一般的なおみくじです
- ③ おみくじの形態は多種多様
- ④ 番号のついた棒が出たら授与所の巫女さんに渡しましょう
- ⑤ 1番から50番それぞれの番号ごとの紙札を受けます
- ⑥ おみくじの内容をよく読んで、結ぶ場合は指定の場所へ



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.29 平成24年7月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。